

## 12. 生物多様性に関する理解度

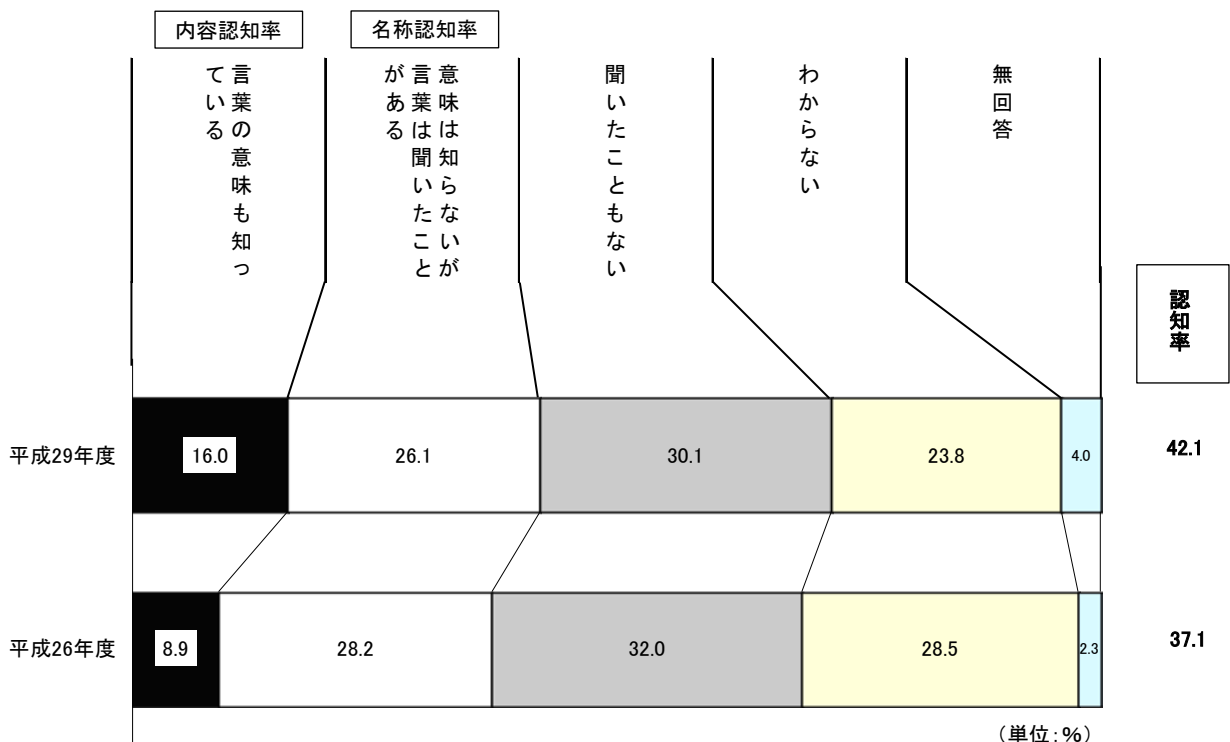
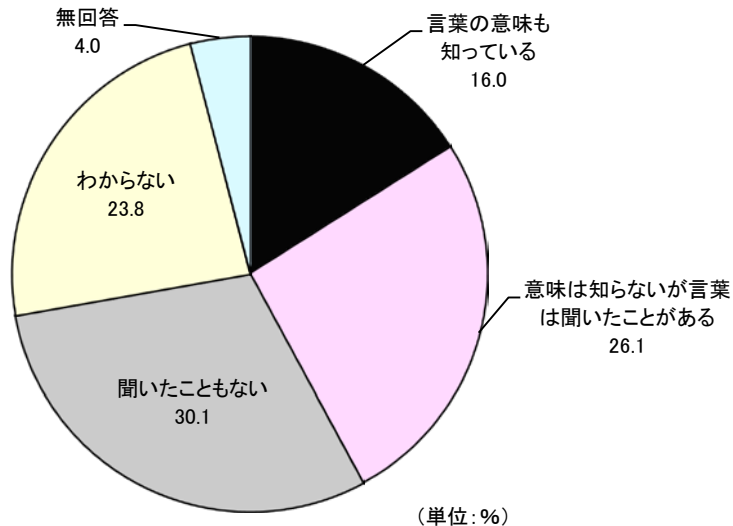
### (1)「生物多様性」という言葉の認知率

問 33 「生物多様性の保全」とは、生きものたちの豊かな個性とそのつながりを守ることですが、あなたは、この「生物多様性」という言葉を知っていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

**“内容認知率”は7.1ポイント増加，“認知率”は5ポイント増加**

「生物多様性」という言葉の内容認知率(「言葉の意味も知っている」)は16.0%、名称認知率(「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」)は26.1%、2つを合わせた認知率は42.1%である。「聞いたこともない」(30.1%)と「わからない」(23.8%)を合わせた非認知率は53.9%と半数以上を占める。

前回調査と比較すると、内容認知率は7.1ポイント増加し、非認知率は6.6ポイント減少している。



＜属性による比較＞

【生活圏別】

内容認知率は広島地方生活圏(17.2%)と備北地方生活圏(16.0%)に対し、備後地方生活圏(12.8%)がやや低い。認知率は広島地方生活圏が44.9%と、他の生活圏と比べて6ポイント以上高い。

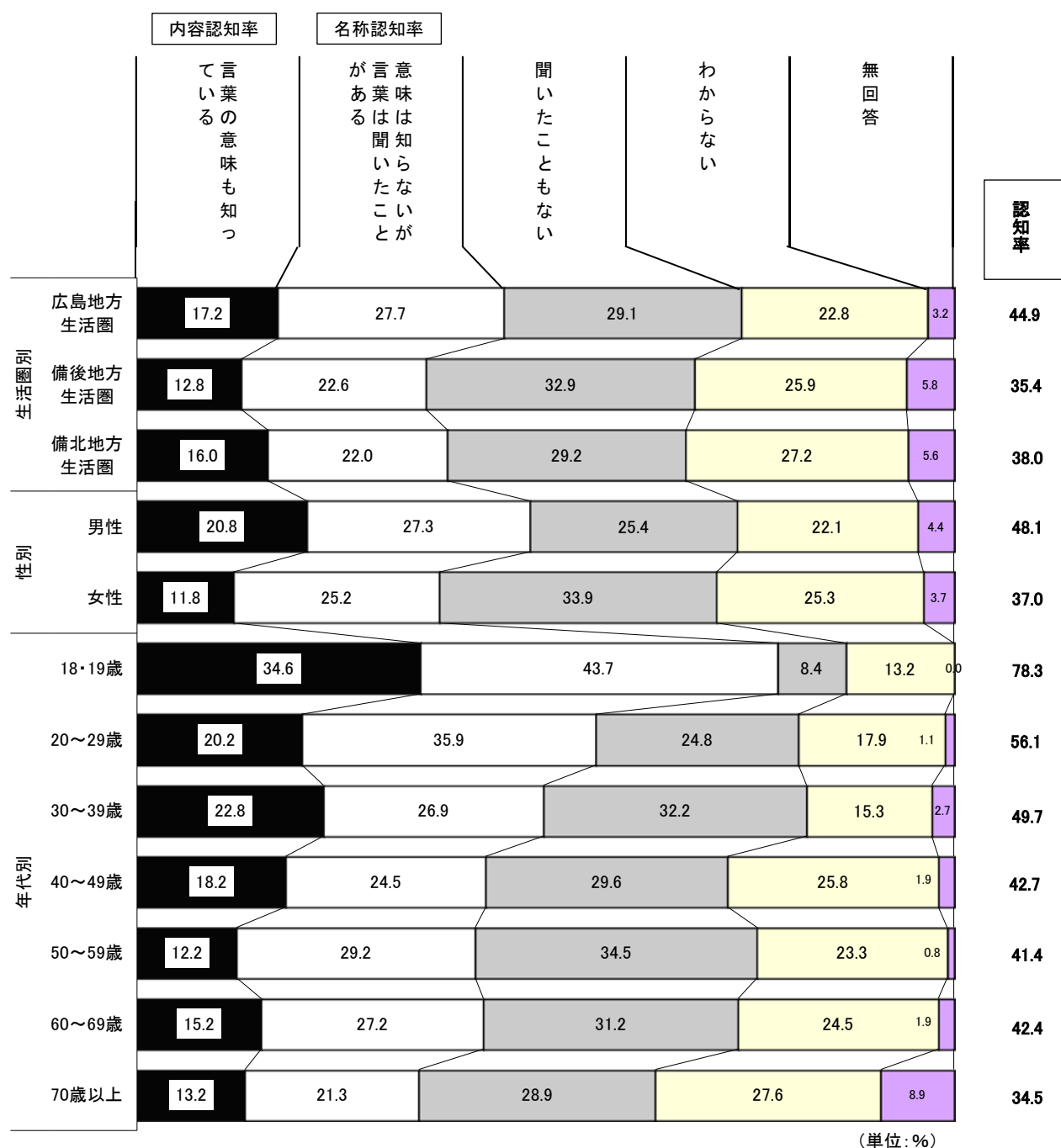
【性別】

男性の内容認知率は20.8%と女性(11.8%)と比べて9.0ポイント高い。

【年代別】

18・19歳の認知率は78.3%と8割近くを占め最も高く、他の年代と比べて20ポイント以上高い。20～30歳代の認知率は半数程度、40歳代以上は半数を下回り、70歳以上(34.5%)は3割程度と、若年層ほど内容認知率、認知率ともに高い傾向にある。

「生物多様性」という言葉の認知率(生活圏, 性, 年代別)

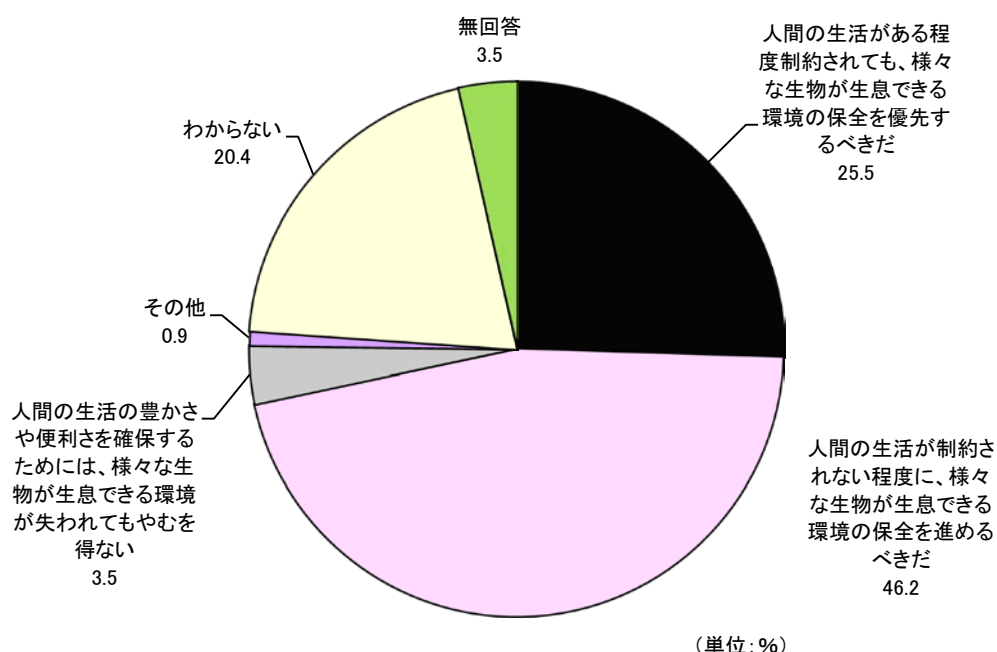


## (2) 生物多様性の保全のための取組について

問 34 生物多様性の保全のため、様々な生物やそれらが生息できる環境を守る取組が進められています。あなたは、このことについてどのように考えていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

### 「人間の生活が制約されない程度に環境の保全を進めるべき」が約半数

生物多様性の保全のための取組について、「人間の生活が制約されない程度に、様々な生物が生息できる環境の保全を進めるべきだ」と回答した割合が46.2%と半数近くを占め最も高く、次いで「人間の生活がある程度制約されても、様々な生物が生息できる環境の保全を優先するべきだ」(25.5%)となっている一方で「わからない」(20.4%)が2割を占める。



#### <属性による比較>

##### 【生活圏別】

広島地方生活圏は「人間の生活がある程度制約されても、様々な生物が生息できる環境の保全を優先するべきだ」(28.1%)が他の生活圏と比べて最も高い。

##### 【性別】

男女間に明確な差は見られない。

##### 【年代別】

18・19歳で「人間の生活がある程度制約されても、様々な生物が生息できる環境の保全を優先するべきだ」は60.5%と6割を占め、他の年代と比べて最も高い。30歳代が43.5%でこれに続く。20歳代と40歳代以上は「人間の生活が制約されない程度に、様々な生物が生息できる環境の保全を進めるべきだ」が半数程度を占め高くなっている。

# 生物多様性の保全のための取組について(生活圏, 性, 年代別)

